



## さぬきげんのじょう 讃岐源之丞 ～百年の歴史をもつ人形浄瑠璃～

毎年11月下旬には、三野町下高瀬にある本門寺<sup>ほんもんじ</sup>で、冬の風物詩「大坊市」<sup>だいぼういち</sup>が盛大に行われています。食べ物の屋台が多く並ぶことから、別名「くいもん市」とも呼ばれるこの行事では、その他にも盆栽や日用品も売られ、多くの来場者で賑います。

23日(勤労感謝の日)には、県無形民俗文化財に指定されている人形浄瑠璃『讃岐源之丞』の公演がJRみの駅前にある「インパルみの」で行われます。

江戸時代に生まれ、大坂を中心に隆盛した人形浄瑠璃は、昭和前半期まで庶民の娯楽として全国各地で親しまれました。その中で、明治30年頃に大見村(当時)<sup>みよしとみたらう</sup>の三好富太郎氏が仁尾から人形を購入して大見座を設けたのが讃岐源之丞の起源

です。三豊各地だけでなく、遠くは東京まで赴き、関東大震災後の慰問興行なども行っていました。

戦後の大衆文化の多様化により一時期衰退しましたが、昭和50年頃から後継者の育成に力を注ぎ、現在でも国立文楽劇場(大阪府)から指導者を招いて講習を行うなど、技術の向上にも努めています。

讃岐源之丞一座は大坊市だけでなく、地区文化祭などにも出演しており、毎年3月21日(春分の日)の「人形浄瑠璃 in みとよ」では、県内外の団体とともに公演を行っています。また、江戸時代から伝わる人形頭42個と衣装40枚も、県有形民俗文化財に指定されています。

<生涯学習課>

## 今月の市民力

農業生産法人林泉<sup>りんせん</sup>は財田町で米麦を生産する農家の有志8人が集まって6年前に設立しました。代表の星川さんは「農作業の担い手が減少する中、なんとかせないかんとおの思いで、法人を立ち上げました。自分たちで作るだけでなく田植えや稲刈りなどのお手伝いをして、地域の農業が元気になるばと思っています」と笑顔で話してくれました。表紙は、地元財田中小学校の5年生と一緒にいる「もち米づくり」の収穫の様。育てる喜びと、食べ物に対する感謝の気持ちを感じてもらいたいと、毎年行っています。

